

真実は笑わない

作・中野 守 (中野劇団)

登場人物

香芝 薫 かあろ

香芝 葉子 ようこ

香芝 マミ

香芝 菜穂子 なほこ

香芝 蓮司 れんじ

三郷 正太郎 さんこうしょうたろう

斑鳩 義輝 いかるがよしてる

高田 たかだ

桃髭 ももひげ

舞台は木造帆船。無秩序に積み上げられた巨大な木箱の上を帆の群が舞う。帆の隙間に覗く見張台、それを大きな帆柱が支える。板張りの床に横たわる高校三年生、香芝蓮司。

蓮司 ん…。

目を覚ます。戸惑いの表情で周囲を見回す。

蓮司 何これ…。何処だよ(こ)…。

傍らに一冊の古い絵本。蓮司、頁を捲る。いつの間にかスーツ姿の女、桃髭が木箱の上に座っている。桃髭、蓮司の絵本の内容を暗誦する。

桃髭 その昔、ヨーロッパの西の果て、ポルトガ

ルという国に、ひとりの若い優秀な船乗りがいました。

蓮司 ?

ポルトガルの船乗り達は、インド洋や東南アジア周辺の海を旅しては、当時ヨーロッパでは大変貴重だった香辛料を国に持って帰って来たり、途中立ち寄った島の原住民を奴隷にして連れて帰ったりしました。若者の航海の腕は確かでしたが、あまり奴隷狩りには参加しなかったので、幾ら頑張っても功績を認めてもらえませんでした。

蓮司 …誰？

自分の船を持つことも許されず、代わりに東南アジアから連れて帰ったエンリケという奴隷を与えられて召使いにしました。…若者はずっと考えていました。アフリカを迂回してインドを越え、東洋へ行くのは遠過ぎる。でも、もし世界が丸いというのが本当なら、コロンブスの見つけた新大陸の更に向こうへ進めば、そう反対回りでアジアに辿り着くはず、それは今のルートよりきつと近道に違いない。

蓮司 その本…。

若者は国の偉い人達に出航許可を貰いに行了きました。でも、国中の誰も認めてはくれません。そこで若者は隣の国に行きスペインの国王にお願いに行き、認めてもらいま

した。成功すれば英雄。ヒデオと書いて英雄。若者は妻と子供を残して、危険な旅に出る決意をしました。

蓮司に気づく桃髭。

桃髭 …お目覚めですか？ 香芝蓮司さん。

蓮司 あんた…誰？

桃髭 …。

船の軋み。体勢を崩す蓮司。

蓮司 なあ、ここ何処だよ？ どうして俺、ここに？

本を閉じる桃髭。波の音。

蓮司 船？ …え？ 確か俺、家にいたのに…。確か飯食ってて…。

蓮司、記憶の糸を手繰る。三点鐘(航海中、時間を知らせる鐘の合図。この芝居では回想の入口の意)が響く。

蓮司の回想。父の薫と母の葉子、パンダの着ぐるみが食卓ごと現れる。但し時間が止まっているので、三人は卓袱台を囲んで静止画像の如く動かない。目の前で手を振るも反応はなし。蓮司は三人に怪訝な視線を注ぎつつ空席に着く。同時に、食卓は時間の概念を取

り戻す。

薫 そんなわけだ、蓮司。

蓮司 ……

薫 おまえに相談もなしに話を進めたのはまああれだけど…。

蓮司 ……意味がわかんねえんだけど…。

薫 ……うん。まあ驚くのも無理はない…。自分の父親が脱サラなんて言えばな。

蓮司 そこじゃなくて…。

薫 僕も自分で驚いてるんだ…。

蓮司 それはいいよ。…脱サラはいいよ。今日び

薫 珍しいことでもないし。

蓮司 ……

薫 な、どういう意味？ 海賊になるって。

沈黙。

薫 ……

蓮司 答えてよ。何？ 脱サラして海賊って。

葉子 詳しいことは海の上で話すけど…。

蓮司 今話してよ。

薫 今の仕事続けながらとも考えたけど、やっぱり脱サラしてやった方が…。

蓮司 だからいいって脱サラは。何？ 海賊って。

葉子 わからないことがあれば今のうちに聞いておきなさい。

蓮司 だから聞いてんだよ。海賊って何なんだよ。

葉子 ……古くは北欧のノルマン人がヨーロッパ各地に—

蓮司 ……

薫 そういうこと聞いているんじゃないよ！ 脱サラして海賊になるっていうのがどういうことかって聞いているんだよ。

蓮司 母さんお茶。

茶を注ぐ葉子。

蓮司 ちよ何なのこれ？ 何の冗談？

薫 冗談でこんなこと言うわけないだろ。

蓮司 つまんねえ冗談にしか聞こえないんだよ。

葉子 面白くねえんだよ。

蓮司 蓮司が生まれてからお父さん、すっかり面白くなくなったのよ。

葉子 俺のせいみたいになうなよ。

蓮司 今日、お別れ会だったんだって。

薫 ……

蓮司 何で会社辞めなきゃいけないんだよ。リストラされたの？

薫、まじまじと蓮司の顔を見る。

蓮司 ……なあ、俺はどうなるんだよ。

薫 (ぼそ) どうってそりゃ…、蛙の子は蛙っていつか。

蓮司 どういうこと？ 俺、やんねえよ？

葉子 ナマズの孫じゃないっていうか。

蓮司 頭に浮かんだこと全部口するのやめてくれない？

薫 でももう、決まったことだから。

蓮司 勝手に決めんなよ。

薫 もう届も出したし。

蓮司 何？ 届けて。

葉子 届も出したし。

蓮司 だから何で繰り返す訳？

薫 頭金だって払ったし。

蓮司 頭金って何だよ？ わけわかんねえよ。

薫 解ろうとするんだ。

蓮司 できねえよ。

葉子 解ろうとするのよ。

蓮司 一々繰り返し返すなよ。会社辞めてどうするんだよ。俺の受験はどうなるんだよ—

薫 何処の世界におまえ受験を心配する海賊がいるんだ…。

蓮司 何処の世界に受験控えた息子を海賊にする親がいるんだよ！ 父さんにはわかんないんだよ。今がどんだけ大事な時期か—

薫 あれは僕が十七の時だった。

蓮司 話聞けよ！

夕陽に染まる放課後の学校。

薫 母さん、お茶。

蓮司 何か始まるんじゃないかなかったのかよ！

薫 コンサバで。

蓮司 何？

薫の高校時代の親友三郷正太郎、何の部活かわからない格好で登場。

三郷 香芝！ 何で昨日部活休んだんだ。

蓮司 何部！

薫 三郷、俺もうプロになる気はないんだ。

蓮司 だから何のプロだよ！

三郷退場。夕陽終了。

蓮司 終わるかよ！ 誰だよ。…ったく。

薫 何を考えてるんだ。

蓮司 俺の台詞だよ！ 涌いてんじゃないか。

薫 お、お、お、親に向かって、涌いてるとは何だ！

葉子、タイミングよくラジカセの再生ボタンを押す。食卓を引っ繰り返す音が流れ、薫、それに合わせてゼスチューア。葉子、テープを巻き戻して停止。

蓮司 何それ。

間。

蓮司 …俺、大学に行くから。

薫 大学ってお前、何処に行くつもりなんだ。

蓮司 早稲田だよ。

薫 何処の！

蓮司 え？

薫 …蓮司、座りなさい。

蓮司 座ってるよ！

薫 いいからもっと座れ。

蓮司 もっと？

薫 …大体蓮司、どうして大学なんか行こうと思っただっていいだろ。

蓮司 どうだっけいいだろ。

薫 大体、早稲田の海賊学科はどの位――

蓮司 ねえよ、んなもん！ 何勉強すんだよ、そんな学科！ え？ 海賊原論Aとか略奪――

薫 母さんお茶。

蓮司 さらっとシカトすんなよ！ つーか、さっきから飲み過ぎなんだよ。何で俺の時だけ自分で決めさせてくれない訳？ 菜穂姉だっけマミ姉だっけやりたいようにやってんじゃないか。

薫 マミだっけ、真剣に考えてる。なあ。

蓮司 パンダ、頷く。

薫 ほら。

蓮司 はあ？

葉子 取りあえず船に乗ってればそのうちだんだん海賊になるから。

蓮司 なんねえよ！

薫 船に乗って、宝島を探したいとか、そういう感情が蓮司にはないのか。

蓮司 ねえよ。ふざけんなよ。

葉子 蓮司の血は何色？

蓮司 はあ？ …てか、船もないのに何が海賊だよ。

薫 ある。…船ならある。

蓮司 え？

薫 船は父さんの古い友人が貸してくれることになってる。蓮司ひとりのわがままを聞くわけにはいかないんだ。

蓮司 わがまま言ってるの誰だよ。だったらまず菜穂姉に言えよ。俺にとにかく言う前に菜穂姉に言うべきことがあるだろうが。全然家にも帰って来ないで、やばそうな奴とばかり付き合ってるし。何で俺だけそんなわけわかんないことに付き合わなきゃいけないんだよ。

薫 そんな理不尽なこと言っな。

蓮司 どっちが！

葉子 早くご飯済ませちゃって下さい。片付かな

薫 いから。
母さんそんなサザエサニツクな言い方しないでくれよ。

蓮司 新しい言葉作んなよ。

葉子 味噌汁冷めるでしょ。味噌汁。

薫 味噌汁ってさ、母さんあの、海賊なんだからさあ。

葉子 味噌汁はアサリですよ。

薫 見たらわかるよアサリだよ、タニシじゃないよ。

葉子 タニシな訳ないでしょ。それともタニシの方がよかったですか。

薫 タニシの味噌汁なんて飲みたいとも思わないよ。

葉子 あなたにタニシの何がわかるんですか！

薫 ……

蓮司 ……

葉子 ……それで大学で何を勉強するつもりだったの。

蓮司 哲学とか…。

薫 哲学？ あんな非生産的な…。

蓮司 海賊が言うな！

葉子 じゃ、ご飯片付けます。

薫 待ちなさいよ母さん。誰も食べないとは言っていないだろ。

葉子 なら、さっさと食べて下さいいな。香芝君もほら。

蓮司 何で苗字で呼ぶんだよ。

[パンダ、新聞を読んでいる。](#)

蓮司 あのさ…。

薫 今日の御飯は味噌汁だけですか…。

葉子 だってお金ないでしょ。

薫 退職金は？

葉子 だから頭金で全部飛びましたよ。

蓮司 何やってんの？

薫 マリーアントワネットって人がさ、その日食うのもままならない民衆に向かって、何て言ったか知ってる？ パンがなければケーキを食べればいいじゃない。

葉子 その人洋食が好きなのね。

薫 フランスの人だよ。

蓮司 なあ、まだ話…。

葉子 日本語上手ね。

薫 フランス語で言ったんだ。

葉子 貴方、フランス語できるんですか。聞いてませんよ。

薫 僕はできんよ。

葉子 で、何なんですか？ そのマリーさんとワネットさんは。

薫 二人になっちゃったよ。論点ズルムケだよ。

蓮司 ……海賊の食事が味噌汁だけって、ちょっとシュールじゃないか？

蓮司 海賊じゃなくてもシュールだけど。

葉子 家計に余裕がないんです。

蓮司 家のローンもあるんじゃない？

薫 どうする蓮司。

蓮司 こっちの台詞だよ！ 本当にどうすんの？

薫 仕事もしねえで。

蓮司 仕事なら決まっている。

薫 そ…。それなら——

蓮司 暴レル関係。

蓮司、薫に突っかかろうとした時、偶然パンダがいきなり立ち上がったため、割って入った形になり、蓮司、動けず、遠くを見つめる薫。

蓮司 何だよその遠い目は！

薫 いいか蓮司、譬え血の繋がった親子でも僕は船長だ。船長の言葉は絶対だ。僕はマゼランになる。

蓮司 なるってどういう意味？ マゼランって昔の人だろ！（吠える薫） 煩い！ それにマゼランって海賊じゃないだろ！

葉子 じゃあ、母さんはプリキュアになる…。

蓮司 じゃあって何？ 言った者勝ち？ 大体、船長って何？ 船はおろか、車の免許もないだろ。だからリストラされたんじゃないか、ねえのかよ。

薫 煩いよ二代目。

蓮司 継がねえよ！ 痛。（椅子に）何？

薫 ああ釘が出てたから直しておいた。
 蓮司 余計酷くなってるだろ。父さんが修理する
 といつもこうだよな。…(ボン)自分で座っ
 たらいいだろ。

薫の椅子と交換しろとはかりに目を向ける蓮司。

葉子 蓮司が船長の椅子を狙ってますよ。

薫 威勢がいいな。

蓮司 何言ってるの？

薫 母さん、このアサリ足が生えてるぞ！

蓮司、味噌汁を吹き出す。

葉子 …あら嫌だ。魚松うおまつさんたらそそっかしい。

薫 そそっかしいで済みますのか？ アサリに足

が生えててそそっかしいで済みますのか。そ

ういう次元じゃないだろ。

葉子 お金が足りなくてまけてもらったの…。

薫 にしてもだな。

葉子 こんな所で足が出るなんて。

薫 巧いこと言ってるんだ。

蓮司 あのさあ…。

薫 母さんこれ、多分、アサリじゃないよ。

葉子 嫌なら食べなくていいですよ。

薫 食べるよ。

蓮司 食べんのかよ！ ああもう！ おかしいよ。

薫 あんたら。

薫 あんたら？ 蓮司は親に向かってあんたら

なんて言葉遣うのか！

薫、発作。

蓮司 ホントさ、付き合ってる暇ねえから。海賊

ごっこか何か知らないけど、そういうのは

さ…。

蓮司、急に睡魔が襲い、その場につ伏す。パンダ

も何故かそれを確認してから気を失う。葉子、蓮司の

頬を叩く。蓮司反応せず。

葉子 あなた。
 薫 海は死にますかーっ！

豪快な波音。暗転。

中央に巨大な黒い髑髏の旗。雨合羽に身を包む船乗り
 が次々登場。咳払いや合羽の擦れる音、足音が次第に
 揃い、リズムに変わる。

中央奥よりパンダの着ぐるみ登場。パンダ、食卓の上
 に立ち、颯爽と頭を脱ぐ。凜としたマミの顔が現れる。

マミ (まくし立てて) 記憶の長嶋記録の王さん、パ

タパタママにサンデーパ、フーテン寅さ

ん風船おじさん、借金地獄ノリノリ天国、

酷いよ姉さんお黙りカツオ、夜霧よ今夜は

ブギーバック、酒と涙なみだと男と男、送り狼出

迎えパンダ、飲んでよぎるは悲しい記憶、

何の騒ぎだ授業中だぞ、先生おしっこ止ま

りません、過去も未来も陸おかに残し、いざ海

原に漕ぎ出ん。短き生涯、何で綴ると尋ね

られたら、迷わず私はこう答えよう。人で

綴ると！ 人で綴ると！ 変な日記！

雷鳴。全員一瞬にして、嵐の中を彷徨う船の乗組員。

マミ、船首像の如く前方を見つめ続ける。

薫 手の開いてる奴は船尾の修復に当たれ。命

綱を忘れるな！

船員 おお！

菜穂子 前方に大渦発見！ 船橋ブリッジ！ 応答せよ！

前方に大渦！

薫 回避イー！ 全速後退！

全速後退！

菜穂子 駄目！ 潮の方が速いよ！

死にたくなかったら、何とかしろ！ 全員

飛ばされてないか！

船員 おお！

高田 潮の流れが変わった！

斑鳩 面舵一杯！

薫 駄目だ回頭不能！

大きな衝撃。全身体勢を崩しワーキーヤ言っている。

斑鳩

船長、海峡だ。

薫

みろ。大陸の果てだ。俺の考えは真実だったんだよ。みんな！あと少しだ。何とか持ちこたえろ！このまま海峡を越えて大陸の向こう側へ突き進め！

斑鳩

船長！この海峡に名前をつける。俺達が見つけた証に。

薫

よし！じゃあ、チンコ！

斑鳩

海峡ってつけろよ！

薫

海峡チンコ！

斑鳩

何で海峡が前に付いてんだよ！

高田

その前にチンコ指摘しろよ！

薫

国に帰ったら億万長者だ。歴史に、俺の名を刻め！今刻め！さあ刻め！

全員走り去る。

現実時間の再開。蓮司の前に再び桃髭。絵本の続きを暗誦する。

桃髭

若者はこんな冒険がしたいと考えてました。東洋への道は遠過ぎる。でも、世界が丸いというのが本当なら、反対側から回っていかば、きつと近道に違いない。若者は妻と子供を残して、危険な旅に出る決意をしました。

蓮司

…マゼラン？あの、誰ですか？

桃髭、去る。

蓮司

ちよっと！何で俺、この船に乗ってるんですか？

葉子と、蓮司の姉菜穂子登場。菜穂子、水商売的服装。葉子は床の塵を拾っては客席に投げ始める。

菜穂子

蓮司。

蓮司

菜穂姉？

菜穂子

久しぶり。

蓮司

何、その格好。

菜穂子

ああ、仕事帰りだったから。

体臭を気にする菜穂子。

蓮司

今、何処にいるの？

菜穂子

店の近くにマンション借りてる。

蓮司

一人で？

菜穂子

一人で。…これって、船？

蓮司

うん。

菜穂子

…みんな乗ってるの？

蓮司

うん。

菜穂子

ママ姉も？

頷く蓮司。

蓮司

菜穂姉出てっから元氣ないよ。

菜穂子

…。

菜穂子

状況解る？

蓮司

俺、家で晩飯食ってたんだ。でも気づいたらここで寝てて。

菜穂子

そう…。

蓮司

菜穂姉が何でここに？

菜穂子

あいつが客のフリして店に来て。店出てタクシー止めたら、あいつが私のこと無理やりタクシーに押し込んで、そのタクシーはニセモノで運転手がいきなり私の口にハンカチ当ててきて、目が覚めた時にはここにいた。蓮司も拉致されたんですよ。

蓮司

何でこんなそんなこと。

菜穂子

さあ。気でも触れたんじゃない？…蓮司も災難だね。受験で忙しい時期なんですよ。冗談じゃねえよ。いい加減にしてくれよな。母さん、さっきから何やってんだよ。

蓮司

あ、蓮ちゃん。

菜穂子

遅いよ。

蓮司

これどういうこと？

菜穂子

こっちの台詞だよ。眠らせて、拉致って来たくせに。母さん、あの味噌汁に睡眠薬か何か混ぜたろ。

蓮司

睡眠薬に味噌汁を混ぜたの。

菜穂子

余計タチ悪いよ！…俺本当にこんなこと

蓮司

してる場合じゃないんだから。

蓮司、船酔いの様子。

葉子 たまにはいいじゃない。こうやって家族で出かけることなんてずっとなかったんだし。

三郷 正太郎登場。女装で白衣。蓮司に気づく。

三郷 目が醒めたのね、蓮司君。あれでしょ、勉強ばっかで寝不足だったんでしょ。

蓮司 ?

三郷 …酔い止めはあるから、ちょっと待ってて。それとも薬の効き目強過ぎたかな？

三郷、鞆を漁る。

蓮司 あの…。

三郷 私？ 独身よ。

蓮司 聞いてないです。あの、誰ですか。何で俺の名前…。

三郷 知ってるかって？ さあね。船医を任せられた三郷よ。

蓮司 センイ？

三郷 船の医者。

斑鳩 義輝登場。

三郷 いい船ね。

斑鳩 だろ。拾ったにしては。

蓮司 拾った？

斑鳩 まだ使えそうだったから、貰ってやった。ボトルから出すの大変だったけど。

菜穂子 ボトルシップ？

三郷 それより斑鳩、舵ほったらかしでいいの？

斑鳩 自動操縦だ。どの道放っておいても三六〇度障害物はない。いやあ、大きくなったな。

蓮司君。

葉子

父さんの友達の斑鳩さんよ。

斑鳩 今回舵を任せられた斑鳩義輝だ。赤髭って呼んでくれ。

髭は生えていない。

蓮司 何が？

斑鳩 覚えてないか。まだ、君達が小さい頃はよく遊びに行ったんだけどな。なあ、正太郎。

三郷 下の名前で呼ばないで。

斑鳩 君達の親爺とは高校時代、同じ部活でね。

菜穂子 気をつけなさい、蓮司。さっき言った客と

タクシーの運転手よ。ねえ、携帯返してよ。

三郷 必要ないでしょ。どうせ圏外よ。

蓮司も自分の衣服のポケットを調べるが、携帯電話はない。

蓮司 父さんは何処？

葉子 二人とも機嫌が悪くて。

蓮司 何処だって言ってるの！ この船に乗ってるの？

三郷 勿論。船長なんだから。

蓮司 父さんと話がしたい。

斑鳩 ほら、見て見て。日付変更線。

蓮司 ねえよ！

菜穂子 何の真似？ こんな所に連れて来て。早く返してよ。

斑鳩 それはできない。

菜穂子 はあ？

葉子 菜穂子、あんたもこれからここで海賊として生きていくの。

菜穂子 何それ？ 誰がそんなのやるって言った？

菜穂子 店に行かなきゃならないのよ。とっとと帰してよ。

斑鳩 そう言うな。同じ水商売だろ。

菜穂子 何言ってるの。

斑鳩 航海長の斑鳩です。取りあえず船長に代わって状況を説明しておく。現在この船は座標を示すのが何だか難しい状況にあるが――

蓮司 ―― 遭難してんの？

斑鳩 そんな訳ないだろ。周りにとってちょっと行方不明になってるだけだ。

蓮司 だからそれを遭難って言うんだらうが！

斑鳩 そんな難しいこと言われても。

蓮司 何処が難しいんだよ。ここ何処だよ！

の役割を決めた表を預かっております。舵取りは赤髭。事務長は私桃髭が。船医は三郷様。香芝葉子様は厨房長。残りの方は甲板手です。全員朝の五時に起床。宿直は交代制で。その他詳細にわたって書いてありますので後でご確認下さい。

海の上っていうのは、常に危険と隣り合わせです。一人でも足引っ張る人間がいたら、それは乗組員全員の命取りになりかねませんからね。船長に逆らう人間は勿論、頼りにならない人間、怪しい人間は容赦なく海へ投げ出すんで…。

パンダの着ぐるみを着たマミ登場。

高田 怪しー！

桃髭、パンダの頭を脱がせる。

高田 誰だ！

マミ 僕はペジテのアスベル。こっちは妹のラステル（以降『風の谷のナウシカ』ネタ）。

ラステルなんていない。

高田 捕らえろ。

桃髭 は。

葉子 すいません、その子、私の娘なんです。

高田 娘？ びっくりするじゃないですか。いきなりこんな格好で現れて。

マミ 驚くのは当たり前さ、僕らは腐海ふかいの底にいるんだよ。

高田 捕らえろ。

桃髭 は。

葉子 待って下さい。マミ、ちょっと緊張してるだけで。

高田 緊張？ マミちゃんて言うのか。なあ、マミちゃん…。

無視。

高田 あの…。

葉子 今はアスベルって呼んでやって下さい。

高田 え？ あの、アスベル君。

マミ あ、大ババ様。

高田 捕らえろ。

桃髭 は。

葉子 マミはちょっと頭が弱いんです。悪気はないんで、話を合わせてやって下さいな。

高田 合わせるって…、王蟲おうむの怒りは大地の怒り…。

桃髭 何やってんですか。

高田 アスベル君、おじちゃんら今、大事な話してるから、大人しくしてくれるかな。

マミ 蟲むしに襲われてそんな顔になったんだね。

高田 捕らえろ。

桃髭 は。

マミ 待って、やめて、痛い痛い。やだ！

桃髭、マミを連れて行くこととする。

マミ やめてっいたら！ 嫌だ！（桃髭何もしていない）引っ張らないで！ 増える、増える！

マミ、見えざる手に連れ去られる。

高田 何やねん、あれ。

斑鳩 マミちゃんです。

高田 解ってる！

蓮司 なあ、海賊海賊って、一体何するんだよ。何だよ海賊って。

高田 …まあ、あれやね。説明するより見てもらった方が早いわな。赤髭。桃髭。

高田 はい。

髭ズ 何でもいいから海賊らしいところ、見せてやれ。

高田 でしたら、丁度真東ニキロの所にフェリーが停泊しています。何でも海の上の大浴場

桃髭 が売り物で、丁度この時間殆どの人間が風呂の中かと。それで思いつきまして。

高田 カモって訳か。人手は足りるか？ 必要ならこの中から…。

斑鳩 いえ、我々二人で。

高田 ほな。早速始めてくれ。皆さんにもいづれやってみらうことになるから、よう見とくようにね。

桃髭 『銭湯』。

桃髭と斑鳩、突然、銭湯コント始める。高田、暫く呆然と見ていた後、斑鳩の手を引っ張り舞台隅へ連れて行く。

斑鳩 まだオチが…。

高田 (ひそひそ声) 思いついたってコントをか！

斑鳩 社長が海賊らしいとこなら何でもいって。

高田 略奪の話だと思っただろ。見ろ！みんな引

いてるじゃないか！

斑鳩 (全員に) 何勝手に引いてんだよ！

高田 お前が引かせとんねん！

葉子 今のやるんですか？

高田 違います違います。赤髭、お前なあ、やっ

とまともな仕事入ったのに、この仕事ポ

シャってみる。また、三人でおじゃ魔女…。

髭ズ をっほん！

蓮司 何！ おじゃ魔女何？

菜穂子 気が抜けるわ。

高田 毛が抜ける？

菜穂子 え？

高田 今、誰か毛が抜けるって言わなかったか？

誰だああ！ 俺の一番嫌なこと。言っただろ。誰が言った。お前か！

菜穂子 言っていないわよ。
高田 がああああ！

高田、猛然と菜穂子に突っかかる。斑鳩をはじめ周囲の人間、体で止める。

斑鳩 抜けるって言っただろ！ 抜けるって社長の前では禁句なんだよ。抜けるって。抜けるとか滑るとか摘要らずとか。

高田 (菜穂子に) 何度も言うな！

菜穂子 今の私じゃないわよ！

高田 貴様か、赤髭！

斑鳩 え？

高田 何が赤髭だ！ 何処が赤髭だ！

高田、斑鳩の髭一本ない顎をまさぐる。

斑鳩 社長が付けたんでしょ。説明するのに、言

わなきや解らないでしょうが！

高田 何度も連呼することないだろ！

斑鳩 それは口が滑っただけで。

高田 だから滑るって言うな！ 貴様、何者だ！

菜穂子 何？ この人。キツ！。

高田 何がキツいんだ！ 照り返しか！

斑鳩 誰も言っていないでしょ！ 早く本題を。さっ

きからズレてますって。

高田、髪の毛のズレを直す真似。

高田 ズレるか！

斑鳩 何で、いちいち反応するんですか！

高田 だってこいつらが！

葉子 何？ ハゲって言ったたら駄目なの？

高田 う。

桃髭 それは一番言っちゃ駄目なんです！

高田、突如彎刀を構え、無差別攻撃。

全員 わああ！

斑鳩が応戦。殺陣。

斑鳩 社長！ そんなに暴れたら床が薄くて抜け

やすいから。

高田 薄くて抜けやすい？ いい加減わざとだろ！

全員悲鳴をあげて逃げる。

夜。見張り台に座って、双眼鏡を覗く菜穂子。波は穏やか。

三郷登場。

三郷 船、通らないわね。

菜穂子 何なの、あの高田って奴。それにあんたらも。

何で父さんに協力する訳？

三郷 …羨ましいから。

菜穂子 は？

三郷 聞いたかな？ 私と斑鳩と香芝は同じ高校だったって。

菜穂子 …。

三郷 もうね、二十年以上も前の話。家族よりも一緒にいる時間が長かった。でも卒業したら、みんな違う方面に進んでね。香芝は家の事情で、進学諦めて仕事に就かなきゃならなかった。

菜穂子 ふうん。

三郷 昔の私を知ってる人とは会わないようにしてたのにな。…私と君のお父さんを引き合わせたのは、菜穂子ちゃん、君なのよ。

菜穂子 私が？

三郷 私ね、^{セント}聖ポキール医大病院ってところで、白衣きてんの。

菜穂子 え？

三郷 ずっと会ってなかった。香芝、随分オヤジになっちゃった。

菜穂子、三郷の言葉に驚いている。

三点鐘。三郷の回想。西部風酒場。斑鳩は客、高田はバーテンに扮しているが硬直している。三郷が着席すると、時間と西部劇的音楽が流れる。菜穂子も隅の席で、客を兼ねて傍観。

薫 悪い、待たせたな。

薫登場。三郷の回想ゆえ、現実よりもオヤジぶりが誇張されている。

菜穂子 そこまでオヤジじゃない。

薫、ハゲヅラを取り、ちよび髭を取る。

薫 ここか、釈由美子が集まる店って。

菜穂子 集まるって何？

三郷 私も今来たところよ。

三郷、盗塁のサイン。

薫 随分待ったんだな。相変わらずだな。嘘つく時に盗塁のサイン出す癖。

三郷 貴方には敵わないわ。

薫 せいが変わったって聞いたけど。そっちの性だったんだな。

三郷 うん。

薫 何年になるかな？

三郷 最後に会ったの、部活の同窓会じゃない？ ほん、斑鳩が酔った勢いで背が伸びた…。

薫 あったなあ。斑鳩か。何してるのかなあ。

三郷 船を拾ったって手紙が来たわ。いつでも貸してくるって。

薫 それは何よりだ。

三郷 香芝のどこの真ん中の娘さん、何だっけ？ イワシちゃん？

薫 菜穂子？

三郷 そう、菜穂子ちゃん。うちの病院に来た。

薫 菜穂が？

三郷 菜穂ちゃんは私のこと気づいてなかった。覚えてないのも無理ないか。最後に見た時、彼女ランドセルを背負ってた。

薫 ああ。

三郷 五、六個。

薫 ジャンケンの弱い子だった。しかし、菜穂子が何でお前の病院に？ うん、その話なんだけど。

高田、三郷と薫のテーブルの傍らへ来る。

高田 ご注文、お決まりでしょうか。

三郷 香芝もウイスキー駄目だったわね。

薫 ああ、三郷と同じでいい。

三郷 カレーうどん二つ。

高田 かしこまりました。

高田、カウンターへ戻る。

斑鳩 だーはっは！ カレーうどんだったよ。坊や、ウチに帰ってママのうどんでも吸ってろ！

菜穂子 いや、意味解んないし。

三郷 そうだ、忘れる前に。これ、人間ドックの

結果。

封筒。

薫 済まんね、わざわざ。まさか三郷の病院だったとは。

薫、診断書を見る。

薫 えーと、貴方の健康度はせっかちなコアラです。

三郷、表紙が動物のイラストの本を出す。

三郷 ……せっかちなコアラの貴方はと…。

薫 来ないうちに病院も変わったな。

三郷 あらら、脂肪肝です。飲み過ぎ、働き過ぎに注意しましょう。

薫 成程、下痢が止まらない訳だ。

三郷 自覚があるの？

薫 ……ああ。

三郷 菜穂子ちゃんって、今何やってんの？

薫 高校中退して、殆ど家には帰って来てない。

菜穂子 ……

薫 ホント、何考えてるのか解らん。小さい頃はホント可愛かったのに。(幼い菜穂子の真似で)菜穂ね、おっしくなったら天狗になる。

菜穂子 言わない。

薫 ある意味、成就したけどな。

菜穂子 ……

薫 で、菜穂子が何でお前の病院に？ 三郷って循環器科だろ。

三郷 うん。来たのはうちの科じゃない。産婦人科。

薫 ……？

三郷 あの子、子供堕ろしてる。

菜穂子 ……！

薫 ……冗談、だろ？

三郷 守秘義務でホントはこういうの言えない立場なんだけど。

薫 菜穂子が？

三郷 ええ。

薫 ……

三郷 やっぱ知らないか。

薫、髪を掻き巻る。

三郷 父親は誰か解る？

薫 儂だ！

三郷 じゃなくて。

薫 いや解らん！

三郷 実は、今回が初めてじゃないらしくて。香芝に言うべきか迷ったんだけど。

他の客の談笑が気になる。

三郷 場所変えよっか。

薫と、三郷、席を入れ替わる。

薫 その、ひとりで病院に？

三郷 たぶん。受付で名前呼ばれたの聞いて。ほら、香芝って珍しい苗字じゃない。呼ばれた女の子が産婦人科室に入っていくもんだから、菜穂子ちゃんが帰った後、カルテ確かめたの。

薫 ……

三郷 夜の仕事してるみたいな格好してた。ちゃうどあんな…。

薫 ……

三郷 三郷、菜穂子を見る。

三郷 こんなこと聞くのもあれなんだけど、家中、うまくいってないの？

薫 どうして？

三郷 ……何となくだけど。その、きちんと向き合っていないんじゃないかって。私には家族がいらないから、偉そうに言える立場じゃないけど。香芝って、会社人間などこあったかなあ。葉子さんに家のこと、任せっきりだったんじゃない？

薫 ……かもな。

高田、うどんを運んで来る。

三郷 どうするの？

三郷 どうするって…。

三郷、うどんをむさぼる。

三郷 放ってたら繰り返すよ、あの子。本人がどんな気持ちで決断したのか、私には解らないけどね。でも、産めなくなってるから気づいても遅いってこと、身をもって知ることになる。私みたいに。

三郷 いや…。僕は、どうすれば…。

三郷 とにかく、向き合って話す時間だけでも、ちゃんと作って。

三郷 自分の子供なのにな、気楽に話し掛けることもできん。こっちは家族養うためにへこへこになって働いて来てるのに、ウチに帰っても誰も何も言わん。

三郷 …。

三郷 僕の親爺、見たことあったっけ？

三郷 ううん。

三郷 だらしない奴でな。お袋にばっか働かせて、フラフラして、家族バラバラだった。あんな親にだけはなりたくなかった。だから働いた。なのにな、血なのかな…。

三郷 …今から取り戻せば？

三郷 薫、首を振る。

三郷 子供らは家に関心がない。

三郷 だからさ、あの子らにとって家庭以外に何も無い状態にすれば。

三郷 監禁でもしろってか。

三郷 そこまでだといきすぎだけど。無人島で家族五人だけとか、それに近い環境ならいいんじゃない？ 例えば、えーと。

三郷 じゃあ、斑鳩に船でも借りるか？

三郷 それ、いいんじゃない？

三郷 …。

警察(桃髭、葉子が扮する。宇宙刑事系でも可)登場。

葉桃 警察だ！ 動くな！

店中パニック。銃撃戦。客、逃げる。何故か薫が一番慌てている。

桃髭 裏に回れ！

葉子 はい！

警察去る。回想終了。

三郷 という訳。

菜穂子 長いよ！

三郷 普通しないよ。家族のために…。

高田 お会計、三千元になります。

高田だけ回想が終わっていない。

三郷 え？

高田 三千元になります。

三郷、金を支払う。

高田 四千円お預かりします。千円のお返しです。ありがとうございました。

高田、漸く消える。

三郷 普通しないよ。家族のために…ここまで。

菜穂子 こういうのプライバシーの侵害って言うんじゃないの？ 父さんの友達だか何だか知らないけど、ウチの家族の問題に、何？ 土足で。

三郷 私が言わなきゃ、菜穂ちゃんずっと隠してたでしょ。

菜穂子 言う必要もないし。

三郷 何で相談しなかったの？ せめてお母さんにはさ。

菜穂子 毎日、隠れて酒飲んでばっかの人に聞いて

もらいたくもないし。関係ないじゃん。話したところでどうせ、臭い息吐きながら説教たれるのがオチ。誰か他人に話すかも知れないし。

三郷
まさか。

マミ登場。ズボンの中を確かめている。

マミ
菜穂ちゃん、私のちんこ知らない？

菜穂子
最初からないだろ、そんなもん。

マミ
最初から？

菜穂子
…母さんね、依存症の会に通ってる。

三郷
聞いた。「君は悪くない悪いのはお酒なんだの会」でしょ。

マミ
菜穂ちゃんの貸して。

菜穂子
ないって！ あっても貸せないわよ。…

同じような人達相手に、自分の家庭の悩み、夫婦のこととか子供のこととか、嫁姑とかを包み隠さず話すの。根本から治療するとか言ってる。

マミ
売ってるとこ知らない？

菜穂子
そこに集まるのは、自分の不幸自慢したくてたまらない人と、他人の不幸を同情したくてたまらない人。自分の娘が墮ろしたなんて、格好のネタじゃん。自分のこと一杯なんだよ。小さい頃からずっと見てきた。買い置きしときゃよかったな。

菜穂子
…ひとりで勝手にイライラしては、マミちゃん叱って。ううん叱ってんじゃない。当たってるの。

マミ
隠してない？

菜穂子
だから最初からないって！ …暴力だけは振るわなかった。傷残って、父さんにバレちゃ拙いし。それでもあれは虐待？ マミちゃん何も悪さしてないのに、糞味噌になじって。だからマミ姉はこんな風になった！

菜穂子、マミを抱きながら、三郷を睨む。

マミ
ちんこもない人間です。

三郷
一緒ね、マミちゃん。

菜穂子
私、物陰で一部始終見てた。怖かった。怒られないようにしてた。知ってる？

三郷
？

菜穂子
父さん、再婚だって。

三郷
え、ああ。

菜穂子
お婆ちゃんが言った。マミ姉は連れ子だって。

三郷
…。

菜穂子
マミ姉が壊れて、それであの人酒に走った。それから、掌返したみたたく大人しくなかったけど。あの人見てて思った。大人ってしょーもないなあ。父さんだって同じ。父親らしいこと全くしやしない。いつも仕

事で逃げる。私のこと軽蔑してるでしょ。どうして私が？

三郷、盗塁のサイン。

菜穂子
そんな嘘が下手でよく女になろうなんて思ったもんね。とにかくとっととあの家出たかった。

マミ、遠くを凝視している。

マミ
菜穂ちゃん、ほら、戻ってきたぞ！

菜穂子
何が？

マミ
さっき食った物が。

マミ、吐き気。

菜穂子
わあ！ ちょっと待って。おっさん、バケツ。

三郷
おっさん？

マミ
おええ。

菜穂子
ほら、こっち！

菜穂子、マミを引っ張って去る。

三郷
ちょっと待てこらー！ 今何だった！ **待**
て、ハゲ！

三郷去る。高田登場。

高田 誰だ、今ハゲって言ったのは！

応答なし。

高田 くそ。

桃髭登場。

桃髭 あ、社長、シャワー浴びました？

高田 いや、どうした？

桃髭 いえ、排水管が詰まってまして。

高田 おま、殺すぞ。

桃髭去る。

高田 それだけか！ 何しに出て来たんだ。あ、待て。

桃髭、戻って来る。高田、空を見ている。

高田 嫌な空やな。舵を手動に切り変えるように

桃髭 伝えてくれ。

はい。

高田、去る。

桃髭、絵本の続き。

桃髭

ポルトガルを離れ、一路南米へと辿り着いたマゼラン率いる五艘の船は、更に南へと向かいます。そこはまだ正確な地図さえない場所。しかし若者は信じていました。無限に続く大陸なんてないはず。必ず大陸の端がある。そこを超えたら東洋に出るはずだと。しかし何日進んでもそんな場所には辿りつかず、そのうち船員達の中から、不満も出始めました。

桃髭去る。蓮司、釣りをしている。横にマミもいる。そこを斑鳩が通りがかる。

斑鳩 たまには鰻が食べたいな。

蓮司 いないよ。こんな沖に。

斑鳩 マミちゃん、眠くないのか。

マミ お腹空いた。

蓮司 さっき食ったろ。

マミ さっき食った。

斑鳩 蓮司君…元気がないな。

蓮司 こんなね、毎日毎日、同じ海ばっか見てて

元気でいられる訳がないでしょ。

斑鳩 同じじゃない。海って一瞬足りとも同じ色

してないんだよ。もっと楽しまきゃ損だぞ。

折角遭難したんだから。

蓮司 …。

斑鳩、天を見上げる。

斑鳩 ほら見て見て、凄いで。ここまで首が曲がる。

蓮司 あの…。

斑鳩 何でそんなに大学行きたいの？

蓮司 別に…。

斑鳩 卒業して、絵本関係の出版社に入りたいか

ら？

蓮司 え？

斑鳩 香芝が言ってたよ。

蓮司 ああ、言ってたかも。いやいや、とっくに

忘れてた。

斑鳩 ああ、結婚したい。

問。

斑鳩 …僕と正太郎と香芝は同じ高校で演劇をやってたんだ。

蓮司 今の何？

斑鳩 引退公演で香芝がマゼランをやったね。

蓮司 マゼラン？

三点鐘。斑鳩の回想。高校の教室。薫、ジャージ姿で登場し硬直。斑鳩が薫の向かいに腰掛けると時間が流れる。

薫 (捲し立てて) だから要するにいわゆるだな。

何だかんだ言っ、海って、例えばさ、やっ

斑鳩 ぱりこーいうもつとさ、凄い俺とかお前とか。

（対抗して）何がどうって訳じゃなく。ちよつと全くその辺がだからあれなんだろうな。凄い俺とかお前とか。

蓮司 覚えてないなら回想に入らないで下さいよ！

薫と斑鳩、相植。で、斑鳩、舵輪を持って来る。急に芝居がかった低い声で。

薫 確かに地図は間違っていた。

蓮司 ?
 薫 だが、私の考えは変わらない。…副船長、まだ、この先なんだ。果てのないと思われていたアフリカにだって喜望峰きぼうほうがあった。先へ進もう。

間。

蓮司 ?

斑鳩 台詞。

蓮司 え?

斑鳩 台詞入れて来いって言っただろ！ 解ってるのか。大会本番まであと何日か。

蓮司 え?

演劇部の稽古中である。薫がマゼラン役、斑鳩が演家。蓮司はどうやら薫達の後輩で、相手役らしい。マミもいつの間にか登場。斑鳩の横に座っている。

薫 斑鳩、時間が惜しい。

斑鳩 (蓮司に) いいから本持って。

蓮司、斑鳩が転がした台本を拾う。

斑鳩 『船長、あんたは港を出る時』から。

蓮司 船長、あんたは港を出る時俺達に何て言っただか覚えてるか。

薫 行くぜ。

蓮司 それも言った。じゃなくて、南には天国みたいな島があるって。だが実際はどうだ、南に来れば来るほど気温が下がってる。びっくりだな。

蓮司 港を出て五ヶ月。どれだけ進んだ？ 船員

達は皆、長旅で疲れてる。海峡と想像していたのが大きな川だと解ったあの時に、国に戻る決断をするべきだった。だが、あんたはそれを怠った。いいか船長。全ての命運をあんたひとり握ってる。今はまだ少ない犠牲で済んでいるんだ。

マミ 済みきっているんだ(南アルプスの天然水CM風)。

蓮司 済みきっているんだ。己の名声と、二五〇人の命。どちらが大切か、よく考えるんだ。

薫 あんたも国に結婚して間もない奥さんを待たせてるんだ。解るはずだ。

あるんだよ。この先に必ずあるんだよ。陸の切れ目が。この大地は丸い。永遠に続く大陸なんてものはありはしない。

蓮司 引く勇気もある。

薫 ここまで来て、何の航路も見つけられずにおめおめと帰れるか。

マミ うにうに。

薫 うにうにと帰れるか。俺は認められないんだよ。

蓮司 危険なんだよ。

薫 臆すな、副船長。みんな命は捨てる覚悟で港を出たはずだ。結果を生むためには、相応のリスクが必要なんだよ。必ず真実は最後に笑ってくれる。この先に海峡があることは確実なことなんだ。確実に近づいてるんだ。

薫、ないマントを翻して去る。マミも後に続く。

蓮司 …破滅にな。

回想終了。

桃髭登場。

桃髭 赤髭。社長が嵐が来るから、舵を手動に変

えるようになって。

…それが。

まさか、舵取れないとか言わないよな。

失敬な。舵くらい取れる。…いや、正確には、

取れた。

取れた？

舵輪を持ち上げる斑鳩。

蓮司 じゃあ、それ…。

斑鳩 いやその、舵引っこ抜けても、ずっと自動

操縦できてたから、その、あの、ごめん。

蓮司 ごめんって、そんな一言で片付けるなよ！

斑鳩 社長を呼んで来る。

桃髭 じゃあ、蓮司君は竹を拾って来て。

蓮司 何が！

斑鳩、去る。蓮司も後を追う。

桃髭、絵本の続き。

桃髭 何日が過ぎたでしょう。ついにマゼランは

思っていた通りの場所、大陸の果てに辿り

着きました。海峡の荒れ狂う波の中を進む

のは簡単なことではなく、何人もの犠牲者

が出ました。やがて海峡を越えたマゼラン

達を待っていたのは果てしなく続く穏やか

な海でした。最初はみんな大はしゃぎでし

たが、行けど行けど、見えるのは海と空だ

けです。九〇日が過ぎました。食糧は尽き、

病人が増え、船乗り達は次々と死んでいき

ました。

桃髭去る。

嵐。全員、慌てた様子で積み荷を移動させたり、帆を上げたりしている。葉子、人目を盗み、懐に隠し持っていた酒を呷る。マミ登場。危機感なく徘徊している。

葉子 マミ。外は危ないから、中に入りなさい。

葉子がマミの手を取ろうとすると、マミ、ヒステリックに拒絶し、逃げ去る。蓮司登場。

葉子 マミ…。

薫、派手に登場。

蓮司 父さん。

薫 船長と呼べ。どうだ船の上での生活も少し

は慣れたか。

蓮司 今頃出て来て。

薫 忙しいんだ。船長というのは。

蓮司 こんなことして楽しい？ 何もかも滅茶苦

茶だよ。

薫 …とつくにな。

蓮司 ？

薫 菜穂子は家を出て、マミは母さんに心を開

かないままでいる。母さんは酒が手放せず。

僕はそれをどうすることもできずに、仕事

に逃げてきた。だから海賊になろうと思っ

たんだ！

蓮司 …「だから」？

斑鳩登場。

斑鳩 蓮司君、持ち場に戻れ！

斑鳩退場。

蓮司 くそ。

葉子登場。

蓮司 母さん、父さんは何処なんだよ。

葉子 さっきまで、ここで三郷さんと話してたわ。

三郷と薫登場。

三郷 ここにいたの。

薫 ひとつ、聞いていいか？

三郷 いいけど、それでひとつよ。

薫 …。

三郷 嘘嘘。何？

薫 三郷さ、お前は何でこの船に乗ったんだ？

三郷 え？

薫 何で？ 病院まで休んで。

三郷 力になれるかなって。それに船医って必要

でしょ。

薫 まあ。それはそうだが。

三郷 …。

薫 解らん。お前が何を隠してるのか。

三郷 何も隠してなんかいいわよ。

三郷、送り盗塁のサイン。

薫 サトラレか。

三郷 え？ 出た？

薫 出たよ。三郷、つまり医者と同船しなきゃならない人間がこの船に乗ってるんだ。そうさ。三郷。ずっとこの船で誰のことをチェックしてたんだ。

三郷 …私はマミちゃんが心配で…。

三郷、送り盗塁のサイン。

三郷 ああ！（自分の癖を嘆く）

薫 誰なんだ。

三郷 …お前だよ。香芝。

蓮司と葉子。葉子、カップの日本酒を啜っている。

蓮司 だって全然そんな素振り見せてないじゃないか。

葉子 でも、ここんとこずっと疲れてるみたいだった。父さんには言わないでね。今楽しそうだし。

蓮司 …。

葉子 生真面目な人だから。ずっと自分のやりた

いこと抑えてさ、家族のために働いてきた

と思うんだわ。薫ちゃんが知ったら、自分

のために船に乗ったって知ったら、また仕

事に戻らなくていい出しかねない。二十年間

殆ど休みなしに働いてきたんだから、少し

くらい好きなことさせてあげたいじゃない。

まあ、いいけど。でも、この時代に父さん

の年で、再就職もないんじゃ。

葉子 何とでもなるでしょ。蓮ちゃんは、進学の

こと心配しなくていいから。お父さんが会

社辞めても、学費は用意できると思うの。

蓮司 ならあれだけ。

葉子 今回は学費のためのちょっとしたバイトだ

と思っ、協力してあげて。ね。

葉子去る。蓮司も遅れて去る。

薫 僕が心配でこの計画に乗ってくれたって訳

か。

三郷 え、ええ。

三郷、盗塁のサイン。

薫 それも違うのか。

三郷 …。

薫 正太郎！

三郷 …あなたの計画すること自体、計画の内だったの。香芝が海賊になるように話を運んだの。あの店で、船を借りようって香芝が言い出さなければ、私が言っただ。

薫 じゃあ、計画したのは。

三郷 葉子さんと私。葉子さんは香芝が説明する

前から、この計画を…。

薫 打ち明ける前から知ってた？

三郷 人間ドックの本当の検査結果を葉子さんに

説明する必要があったから。その時よ。

薫、息を吐く。

薫 けど、時間かかってるんだろ？

三郷 答えさせないで…。

薫 …それが答えになっちゃってるよ。

三郷 私は…。

薫 いい。気にするな。でも何でそこまで三郷

が…。

三郷 …勿体ないって思った。

薫 ？

三郷 家庭があるのに。…私には、到底持つこと

適わない家庭があるのね。部外者が顔を突っ込むべきじゃないことは解ってるけど。勿体ない…。

三郷 菜穂ちゃんと話まだしてないんでしょ。

薫 …やっぱりこれ以上、家族じゃないお前を危険に巻き込むわけにはいかん。お前は今すぐ船を降りろ。

三郷 …海の真ん中なんだけど。

薫、腹を押さえている。

三郷 どうしたの？

薫 必ず真実は最後に笑ってくれる…か。真実ってのは、ここって時には、いっだって自分の想像したのと違うところで笑ってやがる。

薫、海を眺めている。三郷、菜穂子がいることに気づき、去る。マニ浮き輪を持って登場。

菜穂子 三郷さんから聞いたんだって？ 中絶のこと。

薫 …。

菜穂子 別に後悔なんてしてないし。私は私の思う通りにしてきただけ。今までもこれからも何とも思っていないから、気にしないで。ていうか、言われるまで忘れてたくらいだし。

薫 …。

菜穂子 悪いね。父さんの望んだ風に育たなくて。それから家さ、完全に出ることにした。荷物全部運び出すから…。

薫、懐から菜穂子の携帯電話を出す。

薫 返す。沢山登録してあるな。

菜穂子 (奪い取って) 何、人のメモリー勝手に覗いてんだよ。サイテー。

薫 その中に名前だけで電話番号も登録されてないのが二人あった。どっちも苗字が香芝で、下の名前は聞いたことない。

菜穂子 え？

薫 一番に出てきたぞ。そんな上に登録してて、どうやって忘れるんだ。名前までつけて。何で自分を犠牲にするんだ。

菜穂子 もういいって！

薫 男が望んだからか？

菜穂子 関係ないだろ。

薫 心配してるんだ。

菜穂子 しなくていい。

薫 後悔して…。

菜穂子 だったらどうだってんだよ！ あんたには関係ない！

薫 何ができることがあれば…。

菜穂子 何もない。

薫 僕はお前に何かしてやりたくて…。

菜穂子 だったら、だったら、時間を巻き戻せるかよ！

問。

菜穂子 ごめん。言い過ぎた。

薫、全身を震わせている。

薫 …ない。

菜穂子 え？

薫 親なんて…。

菜穂子 ？

薫 親なんて関係ない！ 家族と拘わりたくなければいい。菜穂子、自分のことだけ考えてろ。お前の年頃っていうのは、人生で一番美味しい時だ。先のことなんか今考えることない。相手に奥さんがある人なら巧くやれ。親友の彼氏が気に入ったら、傷つけないように奪えばいい。遠慮なんかしないで、自分が本当に望んでる航路を進め。

蓮司、怒鳴り声が聞こえて、何事かと登場。陰で様子伺っている。

菜穂子 自分で何言ってるのかか解ってるの？

薫 知らん！ 三郷に何言われたか知らんが、んなもん放っておけばいい。好きな人が何人も出来たなら、日替わり定食にしちまえ。やりたいことは全部やれ。抑えることなんかはない。いいか、頑張るな。適当にやれ。要はその時が満たされてりゃいいんだ。結論なんでものはな、棺桶入ってから出しやいいんだ。そんなことにわざわざ今、時間を割くな。

菜穂子 そんなこと？ そんなことって何だよ！ 所詮他人事じゃねえか！

薫 嫌い！ 自分を犠牲にするのはマミと葉子だけでもう沢山なんだよ！

菜穂子 …父さん？

薫 心配なのはお前の将来じゃない。今もその無表情の下で泣いている菜穂子の心の中だ。…ウチに戻りたくなったら、好きな時に戻ってくればいいから。

菜穂子 …もう戻らないよ。

薫 それでもいい。ただ生き続けてくれたら。

菜穂子、走り去る。
退場しかける菜穂子の前に高田登場。

高田 あれが父親の言葉か。聞いてて呆れるよ。今まで、散々家庭ほったらかしにしておいたのだから。父親面されても今更だよな。

菜穂子 …。

高田 ほんの何日か、家族に目を向けただけで、取り戻せるだなんて、烏滸がましい話だ。侵されたくない領域、ズカズカ土足で踏み躪って、挙句の果てに君らこんな厄介に巻き込んで。そのままにしておけばよかったんだ。なあ。ホント愚かな親を持つと大変だな。

菜穂子、高田の頬を平手打ちして去る。

高田 …。

斑鳩登場。高田の正面に立ち、指示を待つ。高田、斑鳩の頬を平手打ち。

斑鳩 どうして！

高田 …何の用だ。

斑鳩 社長。どうするんですか。どんどん嵐の中心に近づいています。

高田 どうする、船長さんよ。

薫、酒を喰らっている。

高田 赤髭。船が沈まないよう、ぐっと押さえて

斑鳩 おけ。え？

薫、絵本を手にする。

薫 船は、何日も何十日も、太平洋を彷徨い続けました。突然、誰かが叫びました。陸だ！

若者の目には、それまで幾度となく騙された蜃気楼ではない、本物の島が映っていました。…その島で若者を待っていたのは、大きな感動でした。召使いエンリケの言葉が、この島の人に通じたのです。若者は、とても感動しました。地球が丸いことが証明されたのだ。エンリケが、ひとりの人間が、地球を一周したんだ。

高田と斑鳩、去る。薫、酒の缶を投げつける。傍観する。

薫 …マミか。

マミ おそらく。

間。

薫 …何のために仕事まで辞めたんだろうな。いつもこうだ。壊れかけた物を修理しようとする、却って酷くなる…。

マミ …。

薫 一緒に飲まないか。菜穂子の船出をひとりで祝ってたところだ。祝ってたところだ。

薫 おまえが大きくなったら、お酌してくれたらなあって思ってたよ。

薫、マミに缶酎ハイを渡し、自分もウイスキーを口に
にする。

薫 いつも何考えてんだ？

マミ なあ。

薫 …自分の娘のことが理解できないなんて情けないことこの上ない。何とか、マミ、お前のことを知ろうとした。何がしたいのか。どういう気持ちなのか。本当は解ってやってるのか。けど、解らないんだ。海賊やってみたけど、意味なんてなかった。情けない。笑えるなあ。

マミ 笑わない。

薫 え？

マミ どうして笑う？ ちゃんと父親やってる。私のこと解ろうとしてくれた。理解しようとして一杯努力してくれてるを、どうして笑う？
真実…。

マミ 笑わないよ。笑う訳ないだろ。ありがどうって思ってる。父さんの娘でよかったって思ってる。自信持っていていいよ。無理することないから。もういいから。

マミ …。
私こそ変な娘で済まないって思ってる。

マミ俯く。物陰で様子を見ている蓮司。

薫 …笑ってくれよ。

マミ ？

薫 笑ってくれよ。マミ、お前は感情を何処に置いてきたんだ。

マミ …。

薫 小さい頃買ってやったマゼランの絵本、あれ見て海賊になりたいって言ってたろ。マゼランは海賊じゃないって言ってるのに、海賊になりたいって。ほら、海賊だぞ。…もう、思い出せないのか？ …海賊になる夢も。…笑い方も。

錆びついた表情筋。それでも懸命に笑顔を作ろうとするマミ。薫、強くマミを抱き締める。

薫 僕の子はみんなひねくれてる。蓮司はあれ見て絵本出版する人になりたいって。それ叶えるために大学に行って…。

蓮司 …（独り言）違うんだ。

薫 菜穂子はあれ見て、天狗になりたいって言うし。

蓮司 …。

薫 世界一周するか。この船で。マゼランがやったみたいに。

マミ マゼランは途中で死んだんだよ。

薫 …そうだったな。

マミ …帰ろ？ …おウチに帰ろ？

薫 ああ。帰ろっ。

問。

マミ 鼻血…。

薫、マミの腕の中で鼻血を出して失神。蓮司飛び出す。

蓮司 父さん？ おい、父さん！（頬を叩く）姉ちゃん、三郷さんをお呼びして！

マミ 鼻血。

蓮司 早く！

マミ お父さん、もう眠たいんだよ。

蓮司 何言ってるんだ、マミ姉！ おい、親父！ 眠たいんだよ。

三郷、葉子登場。冷静に薫を見つめる。

蓮司 三郷さん。父さんが…。

三郷、薫に駆け寄り、脈や瞳孔を確認。

三郷 葉子さん。最初に断わっておいたことなんですけど。

葉子 ええ。

三郷 ここには大した医療器具も揃ってないから、私にできることは殆ど何も…。

葉子 解ってます。

蓮司 …解ってますって何？

葉子 ？

蓮司 何でこうなることを承知で止めなかった？

葉子 こんな陸から離れてしまったら、病院にも行けないだろう！

蓮司 解ってたからよ！

葉子 …母さん？

三郷 肝硬変から肝癌を併発してるの。

蓮司 …癌？

葉子 早いよね。まだ早過ぎるよね。

蓮司 嘘？

三郷 本当よ。

蓮司 何か、方法あんた？

葉子 方法って？

蓮司 手術したら治るんだろ。

葉子 気づくの、遅かった。

三郷 進行が酷くてね、部分切除じゃ間に合わないの。

蓮司 嘘だろ。そんな。今は移植とか方法あるんだろ？

葉子 何処にあるの？ その肝臓は。

蓮司 …。

葉子 何処にあるの？ あるなら早くここに持つ

蓮司 て来て頂戴。

蓮司 …。

斑鳩登場。

斑鳩 何してるんだ。蓮司君。浸水だ。

蓮司 ちよっと黙ってろよ！ 状況を考えてろよ。

斑鳩 状況が見えてないのはどっちだ。ひとりついていけば足りるだろう。

葉子 斑鳩さんの言う通りよ。母さんが残るから。

蓮司 蓮司行って。

蓮司 でも。

斑鳩 さあ、ママちゃんも！

斑鳩、ママの手を掴む。

ママ いやあ！ いや！ ギャー！

ママ、斑鳩の手を噛む。

斑鳩 痛！ 蓮司君、先に行ってるぞ。

三郷 鞆持って来るわ。痛みを抑えるくらいはできるから。

斑鳩、三郷去り際。

斑鳩 三郷、香芝は…。

三郷、首を振る。

斑鳩 そうか。

斑鳩、三郷退場。

蓮司 マミ姉、父さんいなくなるんだってよ。

ママ パパ、寝てるだけだよ。

蓮司 もうずっと目を覚まさないんだよ。

ママ そんな訳ないよ。どしてそんなこと言うの？

蓮司 そんなやなこと言うの？

蓮司 姉ちゃんだって、本当は解ってるんだろ！

ママ 父さんは病気なんだよ！ 治らないんだ！

ママ パパいなくなんないもん！ マミとおウチに帰るって言ったもん！

蓮司 マミ姉、…泣いてるの？

蓮司 今日までお仕事一杯やったから、お仕事やり過ぎてなくなったから、お休み貰って一杯遊んでくれるんだもん！ お芝居観に連れてってくれるんだもん！

蓮司 もうできないんだよ！ 死んでしまっただよ！ 卑怯だよ！ 自分だけ現実から逃げてる！

ママ 何でそんな怖いこと言うの？ 誰なの、お兄ちゃん！ マミのパパのことお父さんなんて呼ばないで！

！

蓮司

…マミ？

葉子

あー。あー(壊れる)。

マミ

ふざけんなあああああ！

マミに突っかかる蓮司を葉子、体で止める。

蓮司

蓮司、お願い、もうやめて！ 早く行って！

葉子

でも！

蓮司

行きなさい！

揺れる船。葉子、マミに手を差し伸べるが、マミ拒絶。去りかける蓮司の前に高田登場。蓮司に両合羽を渡す。

高田

怖いですか？ 父親がおらんようになって

蓮司

まっくんが。

高田

何でこんな急に…。

蓮司

心配な人は、学費のことやったりして。

高田、蓮司とすれ違って去る。

蓮司

高田ー！

蓮司去る。

薫の手を取る葉子。体を揺らし呟くマミ。

葉子

(薫に)ホント根っからの会社人間だったねえ。

こんなことでもなきゃさ、ローンだの、家

族のためだの言っ、死ぬまで働くのやめなかつたでしょ。それこそ譬え、明日死ぬと解ってても。私ね、最期くらい、やりた

いことを、薫ちゃんにさせてあげたかったのよ。

菜穂子、登場。

菜穂子

なかなか立派だったじゃない。父さんって。

マミ

リップって何ですか、おしえてください。

リップって何かおしえてください。リップって何？ 何がリップですか。

桃髭、絵本を持って登場。

桃髭

随分安直な言葉で片付けるんですね、菜穂

菜穂子

子さん。

桃髭

何だよ。他人が。

菜穂子

今まで適当にあしらっておいて、綺麗にま

とめに入ってるじゃないですか。オチてないですよ。ってマミちゃんは言いたいのかも。

菜穂子

は？ ひとり現実受け入れられずに、壊れ

桃髭

てる奴が？

菜穂子

貴方のお父さんは何一つ報われなかった。

我慢して保ってた普通を貴方は当然の普通として、何も考えないで来たんです。

菜穂子

黙れ海賊。

桃髭

コンサルタント。菜穂子さんには到底でき

ないだろうことを、やってのけたって、お父さんなんだから、できて当然だって思ってきたでしょ。後悔こそすれ、評価なんかね。

菜穂子

そんなこと、解ってる。

桃髭、マミに絵本を渡しながら。

桃髭

解ってないでしょ、貴方は。解ってません。

貴方これから一生考え続けなければならぬんですよ。結婚して子供を生んでその子供達に理解されないまま老いて朽ちて頭に輪っか生えて漸く口にしてもいい言葉なんじゃないんですか立派な父親だったって。何もしないうちから口にしてしまうのでは、薄っぺら過ぎますね。

マミ

薄っぺらい。

菜穂子

言われなくても解ってる。

葉子

父さんは解ってもらえて嬉し思ってるわよ。

菜穂子去る。葉子、薫の手を取る。

マミ

パパに触らないで、おばさん。

葉子

マミ。

マミ、絵本を開き、辿々しく、しかし波音にも劣らぬ声で朗読を始める。

マミ
若者は、とても感動しました。地球が丸いことが証明されたのだ。エンリケが、ひとりの人間が、地球を一周したんだ。次は自分の番。

嵐、いよいよ奇酷を極める。斑鳩登場。桃髭と二人で、葉子とマミに避難を促すが、マミは拒絶して絵本の朗読を続ける。二人は葉子にマミを託し、薫を搬出する。一連は音のない演技で行われる。

マミ
しかし、喜びも束の間、この島を占領しようとして欲張った若者は、逆に原住民に殺されてしまったのです。若い船長を失った船隊は、五か月かけてたった一隻になってスペインに帰り着きました。生き残ったのはたった十八人。中でも新しい船長には、絶大な荣誉が与えられました。航海日誌や若者の貴重な手記は、何者かによって全部焼き捨てられ、必死の思いで記したマゼランの遺言は、何ひとつ実現されなかったのです！

マミ、緩やかに本から目を離す。

マミ
何で気づかなかったの？ こうなる前に。何でいつも過ぎてしまうまで、気づかない

の？

葉子
見えてなかったの。本人だって大したことなさげだったんだから。

マミ
悲しい？

葉子
当たり前でしょ。死んじゃうのよ。

マミ
…死んだら悲しい？

葉子
どうしてそんなことを訊くの？ マミには

解らないの？ 誰が死んだって悲しいに決まってるじゃない。

マミ
誰が死んだって悲しいに決まってるじゃない。…じゃあ、何でマミの頭お風呂に突っ込んだの？

葉子、思わず自分の口を押さえる。

マミ
何で？ 教えて？ ねえ何で？ ねえ？

葉子
ずっと、心の中で私のこと責めてたんだねえ。十五年も。

マミ
…マミの肝臓、パパにあげる。

葉子
マミちゃん！ できないのよ。

マミ
どうして？

葉子
肝臓がないと生きていけないからよ。

マミ
もういい。マミ生きてても、誰も喜んでない。

菜穂ちゃんも出てった。マミ、パパに生きててほしい。パパいないのに、マミ、生きてたくない。マミの肝臓ならピッタリ合うでしょ。

葉子
無理なの！

マミ
違う！ できるんだよ。海賊なんだから。

葉子
マミもおばさんも海賊なんだから。

マミ
無理なのよ。血が繋がってないのはお父さんの方なんだから。

マミ
…。

葉子
本のお父さんじゃないんだから。マミちゃんが提供したって、意味ないの。気づかなかった？ そうよねえ、これだけお父さん

子なんだもんねえ。本当の父親じゃないから、最初は巧くやっていけるか不安だったけど。何てことはなかった。マミちゃん、

いつでもパパ、パパ。お父さん仕事でウチのこと全然してくれないし、私が全部

やって、それで貴方の子育て重なって一杯一杯になってても、マミちゃんが背中むず

がって、泣き止まないで、お父さん次の日の仕事に差し障り出たらいけないから、私

が朝までさすって、それでも、パパ、パパ。貴方産んだの私なのよ。なのに私ばっか嫌

な役回り。お父さんのお義母さんには苛められるし。そりゃ子連れの再婚だわ、よく

思われることはないにしても、前の旦那が遊び人って何処かで耳にして、そのこと

で、だらしのない嫁って、近所の人がいる前で。でも耐えた。なのに、それをあんた

が真似て言ったのよ！ やってられなかつ

蓮司 私がこの旅の途中命尽きたとして、君が無事に祖国に帰ることができたら、その時は、これを家内に渡してほしいんだ。言ってることが解んねえよ！ しっかりしろよ。

薫 長いこと陸を見てないといひ弱気になってしまふ。

薫、蓮司に封筒を渡す。

蓮司 俺だよ。解んないのか！

薫 それには、この航海で手に入れた財宝を家族に与えるように指示してある。

斑鳩登場。マゼランの部下の格好。衰弱。

斑鳩 船長、来てくれ。またひとり死んだ。

薫 祈りは済ませたのか？

斑鳩 まだだ。他の奴が不安がってる。近く反乱が起きるかも知れん。

薫、立ち上がる。

蓮司 父さん？

薫 それ、頼んだよ。

斑鳩、薫去る。マミ、絵本を持って登場。蓮司、手紙を読みながら震えている。

マミ でも、のちのち海峡に、若者の名前がつけられたことだけが、たったひとつの報いでした！

全員登場。マミ以外、全員雨合羽。

斑鳩 海がなくなってるぞ！

桃髭 渦だ！ メールシュートルームだ！

高田 全員所定の位置につけ！

斑鳩 回避！ 回避！

桃髭 蓮司君。短き生涯、貴方は何で綴りますか？

高田 舵を切れ！ 取舵だ！

斑鳩 取舵一杯！

三郷 メーカー！ メーカー！ 聞こえますか！

こちらトリニダード号！ 救援をお願いします！

葉子 船長さんが言いました。笑って下さい。

菜穂子 船長さんが言いました。そのままです。

蓮司 船長さんが言いました。生きて下さい。

マミ 船長さんが言いました。ただ、生き続けて下さい。

全員 船長さんが言いました。ただ、生き続けて下さい！

蓮司 船長さんが言いました。生きて下さい。

マミ 船長さんが言いました。ただ、生き続けて下さい！

全員 船長さんが言いました。ただ、生き続けて下さい！

全員、携帯電話を取り出し、耳に当てる。

全員 メーカーメーカー聞こえますか。

ランダムに繰返し、携帯を持つ手をひとり、またひとり降ろしていく。

菜穂子 …メーカー、メーカー、聞こえますか。私

蓮司 …ここにいます。

マミ …何で、綴る？

全員 …人で。

全員 オーバー…。

溶暗。幕。